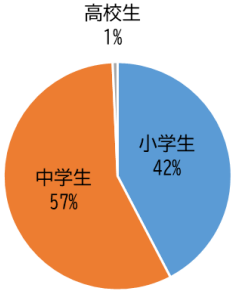
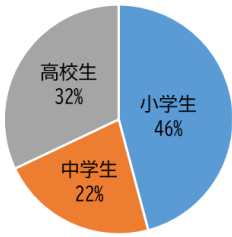


子ども読書活動に関するアンケート調査の実施について

知多市では令和元年度に市内の児童・生徒を対象に「子ども読書活動に関するアンケート」を実施し、子ども読書活動の推進に対する課題が明らかとなったことから、子どもがより主体的に読書活動が行えるよう、「知多市生涯学習まちづくり推進計画」に基づき、令和3年2月に「知多市子ども読書活動推進計画」（計画期間：令和3年度～令和12年度）を策定しました。

上記アンケート調査から5年経過した本年度、知多市の子どもたち（小学生から高校生まで）の読書活動状況・傾向を把握し、さらに5年前の調査から現在までの進捗状況を把握することで、今後どのような支援・取り組みが必要なのか、新たな課題を明らかにするため、改めてアンケートを実施しました。

1 アンケート調査の概要

	令和6年度	令和元年度
対象者 及び 調査方法	【インターネットサイトアンケート】 市内10小学校 4年生以上の全児童 市内5中学校 全生徒 知多翔洋高等学校 全生徒	【実地アンケート】 市内10小学校 5年生の内1クラス 市内5中学校 2年生の内1クラス 知多翔洋高等学校 2年生（全クラス） 【インターネットサイトアンケート】 市内10小学校 4～6年生 市内5中学校 1～3年生 知多翔洋高等学校 ※実地アンケート対象者を除く
期間	令和6年10月1日～11月15日	令和元年9月11日～10月31日
内容	読書に対する意識、中央図書館、センター図書室、学校図書室の利用状況	
回答数	小学生 1,333 件 中学生 1,794 件 高校生 124 件 合 計 3,251 件  小学生 42% 中学生 57% 高校生 1%	小学生 392 件 中学生 189 件 高校生 274 件 合 計 855 件  小学生 46% 中学生 22% 高校生 32%

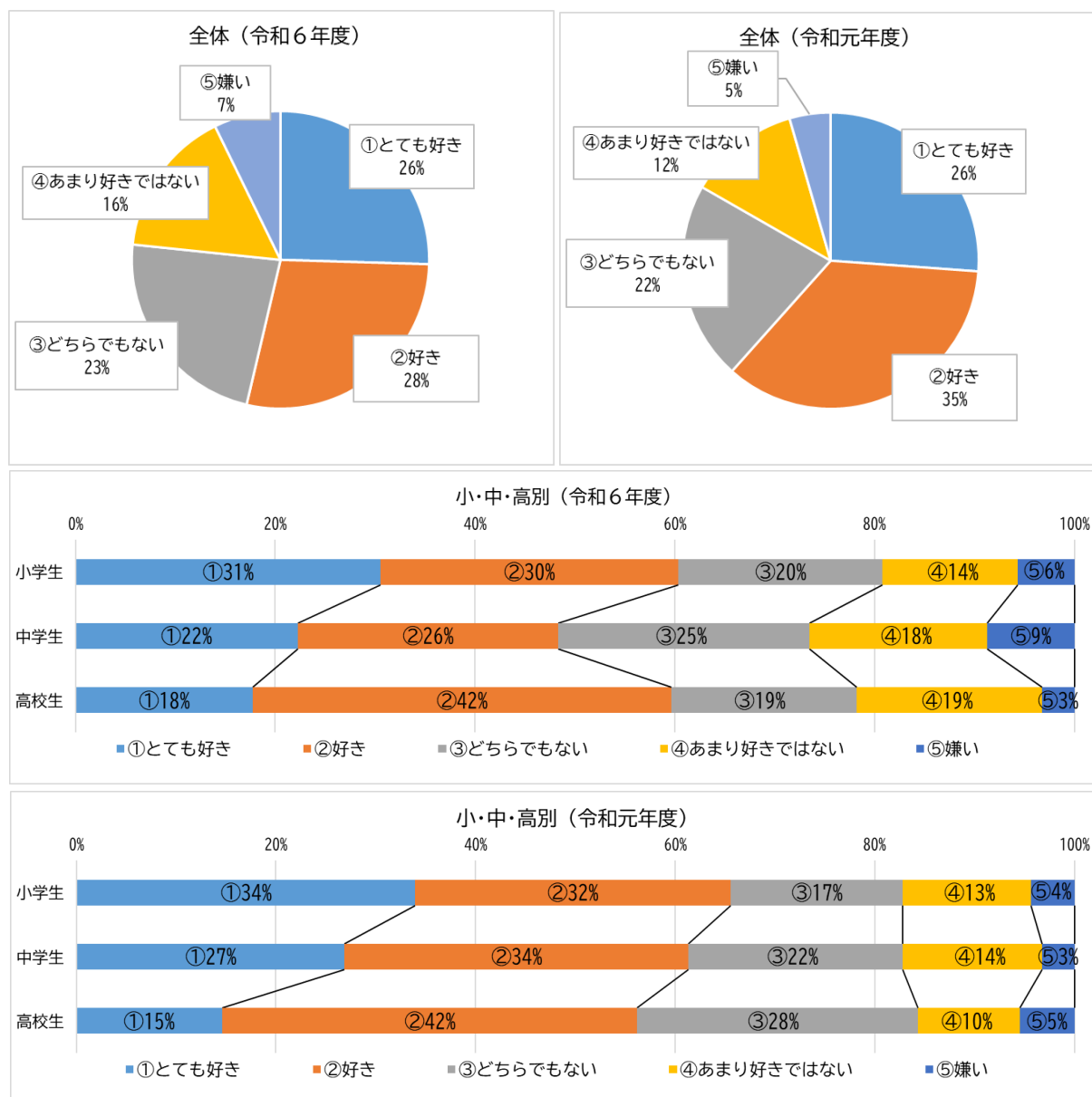
2 アンケート調査集計結果

（複数回の設問については総回答数に対する割合で表記しています。）

【問1】あなたは読書（マンガ・雑誌を除く）が好きですか？（1つ選択）

読書が好きな割合は全体でみると「①とても好き」が26%、「②好き」が28%で合計54%となっており、「④あまり好きではない」が16%、「⑤嫌い」が7%でした。小・中・高別では、「①とても好き」の割合が、小学生の31%で最も大きく、次いで中学生の22%、高校生の18%となっています。

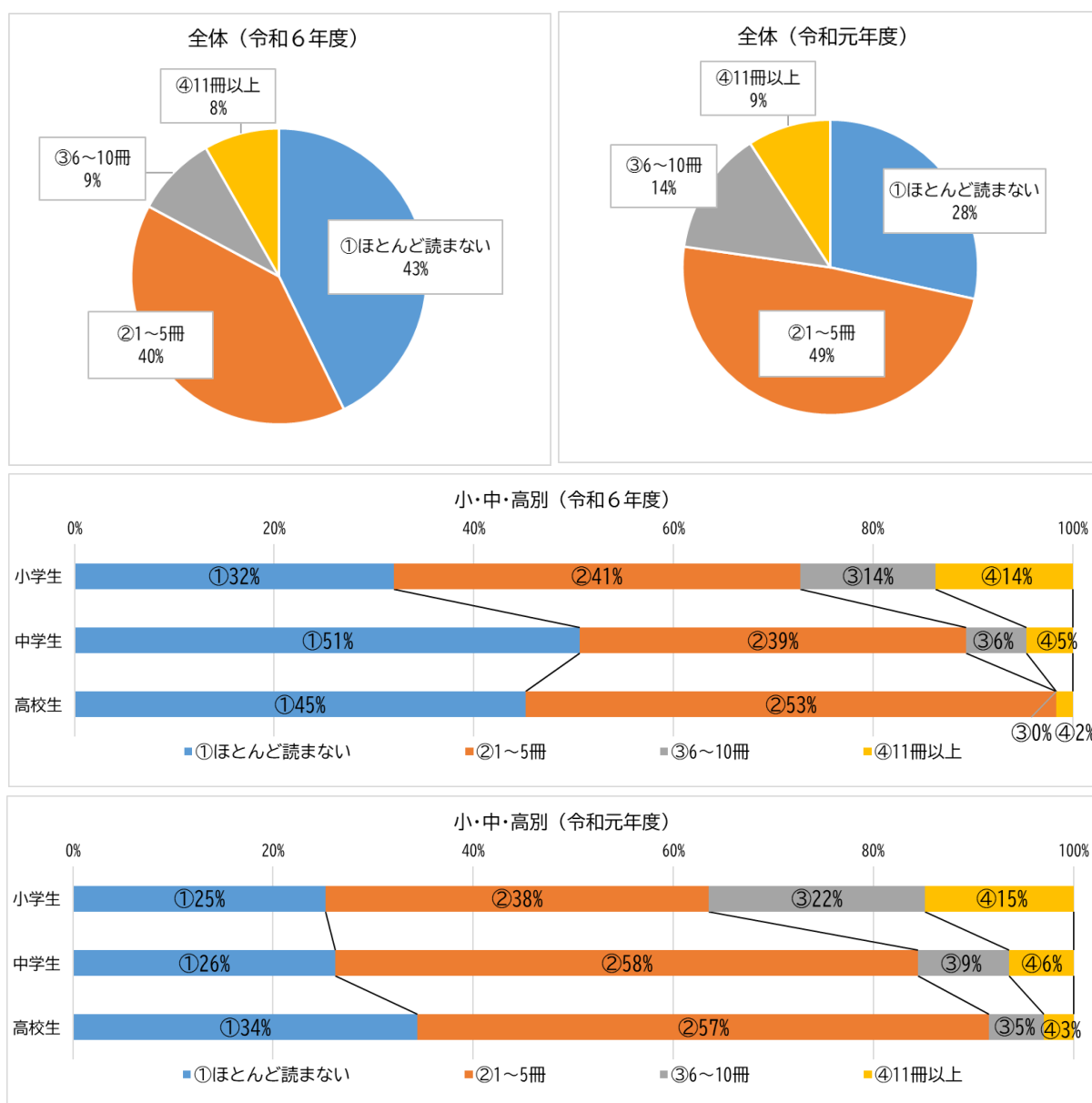
前回の結果と比較すると、「①とても好き」の全体の割合は維持されていますが、「②好き」の割合は7%減少しています。さらに「④あまり好きではない」「⑤嫌い」の合計の割合が17%から23%と、6%増加しています。



【問2】あなたは、1か月に平均何冊の本を読みますか？（1つ選択）

1か月に読む本の冊数は全体でみると「①ほとんど読まない」が43%と最も多く、次いで「②1～5冊」が40%、6冊以上を読む割合は17%となりました。小・中・高別では、年齢が上がるにつれて「③6～10冊」「④11冊以上」の割合が減少しています。

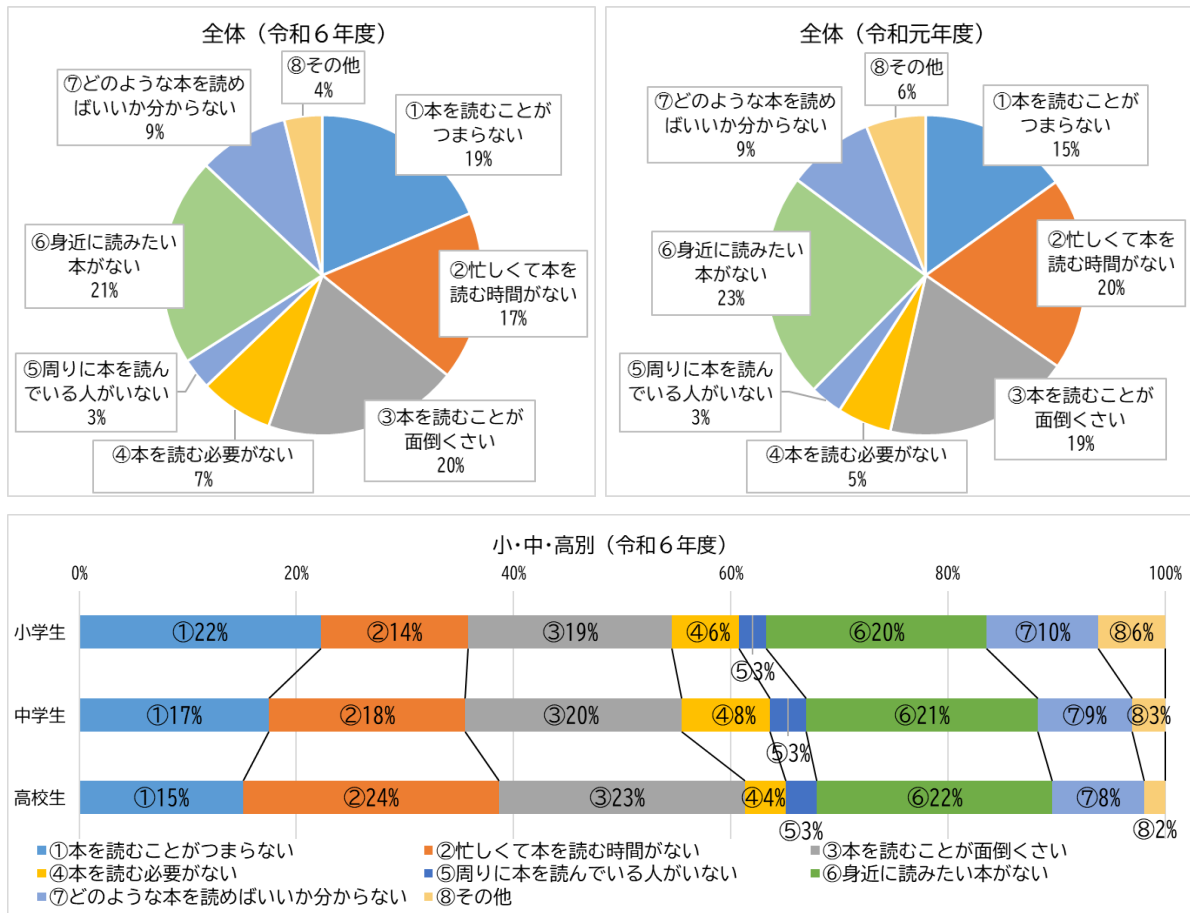
前回の結果と比較すると、全体では「①ほとんど読まない」の割合が15%増加し、6冊以上読む割合は6%減少しています。さらに、中学生の「①ほとんど読まない」が51%と前回の倍近くの割合となっています。

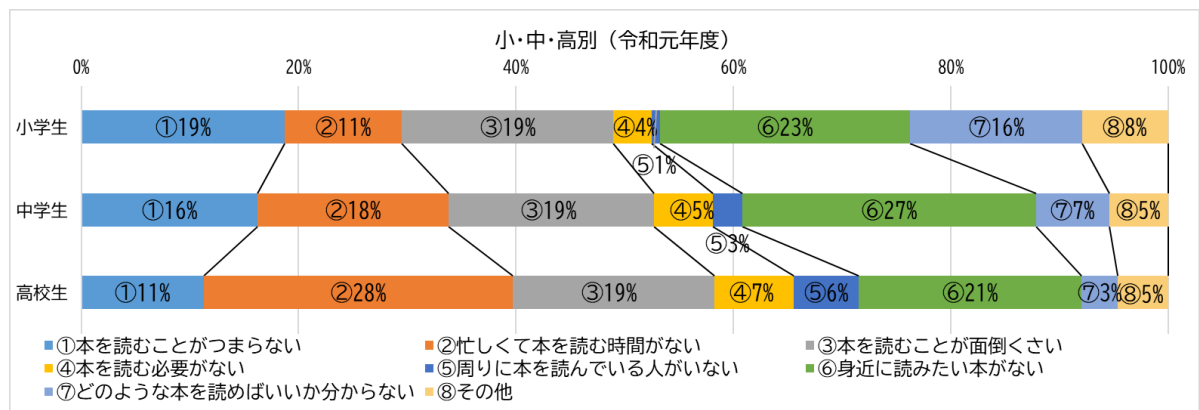


【問3】問2で①と答えた方のみ。あなたが本を読まない理由は何ですか？（複数選択可）

本を読まない理由は全体でみると「⑥身近に読みたい本がない」が最も多く、次いで「③面倒くさい」、「①つまらない」、「②忙しくて時間がない」となりました。小・中・高別で比較すると、前回の結果と同様に、年齢構成が上がるにつれて「②忙しくて時間がない」の割合が増える傾向にありましたが、小学生だけでみても前回よりも3%増加する結果となりました。

「⑧その他」では前回の結果と同様に「多い字や漢字が読めない」「他にやりたいことがある」「本が嫌い、興味がない」という意見が多くあげられました。また、今回の結果では新たに「ゲームやスマホをしたい」という意見も多く、スマートフォン等の普及によるものではないかと考えられます。





⑧ その他

（令和 6 年度）	（件数）
多い字や漢字が読めない	17
他にやりたいことがある	16
ゲームやスマホをしたい	14
読みたい本がない	13
本が嫌い、興味がない	13
時間がない	6
本が買えない	6
友達と遊びたい	4
マンガしか読まない	4
その他	22

（令和元年度）	（件数）
他にやりたいことがある	4
本が嫌い、読もうと思わない	4
多い字や漢字が読めない	3
マンガしか読まない	3
読むのに時間がかかる	3
その他	6

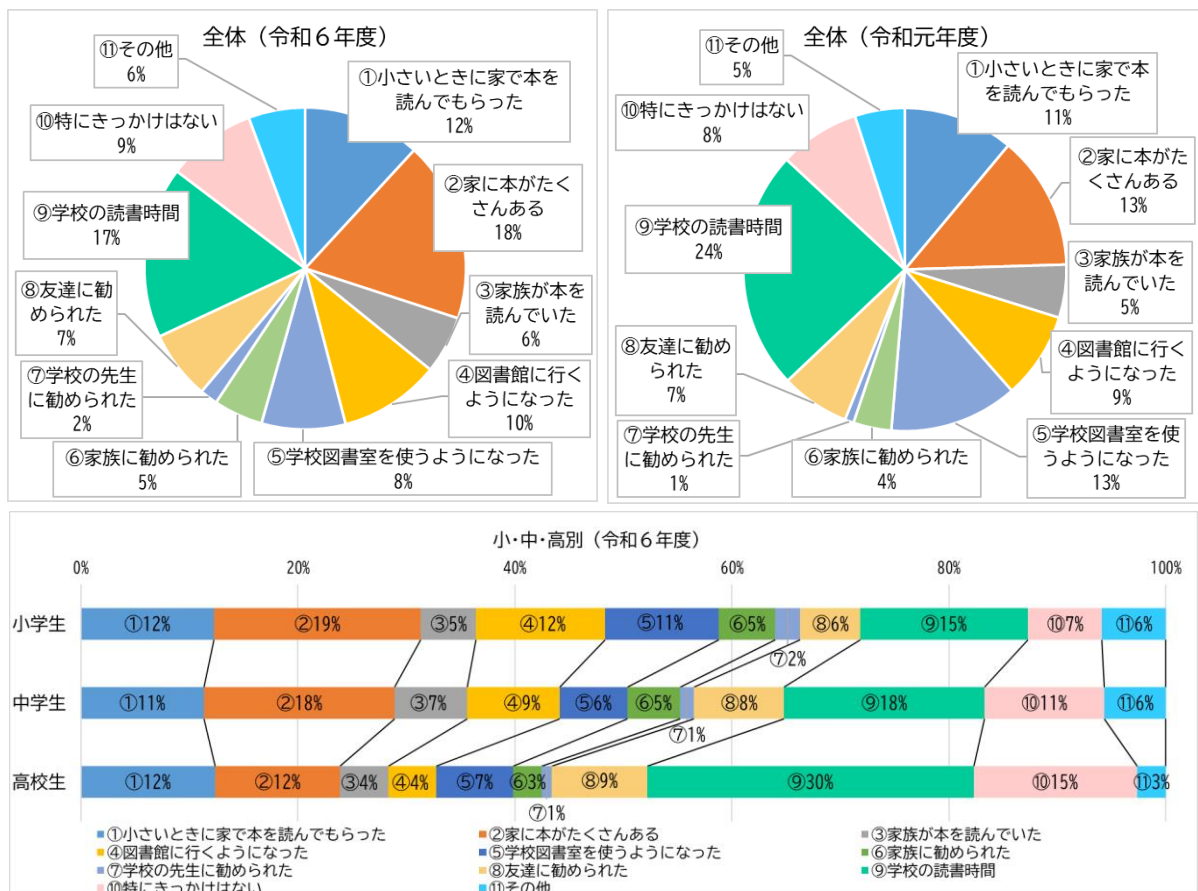
【問４】問２で②～④と答えた方のみ。本を読むようになったきっかけは何ですか？
（複数選択可）

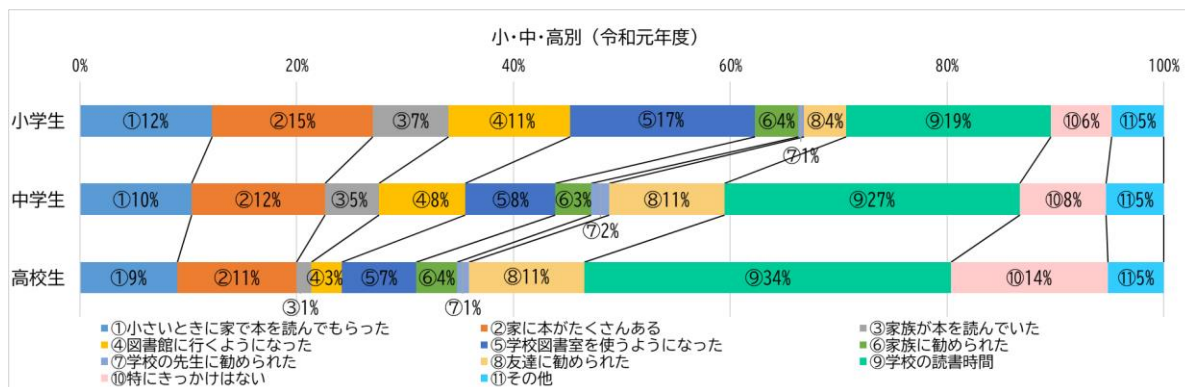
本を読むようになったきっかけは全体でみると「②家に本がたくさんある」が最も多く、次いで「⑨学校の読書時間」という結果になりました。身近に本があることや、教育課程での読書時間の重要性がうかがえます。

小・中・高別で比較すると、前回の結果と同様に年齢構成が上がるにつれて「⑨学校の読書時間」の割合が多くなっています。

また、前回の結果と比較すると、「②家に本がたくさんある」が５％増加し、反対に「⑤学校図書室を使うようになった」が５％減少しています。

「⑪その他」では前回の結果と同様に「本の面白さがわかったから」「自分の好きな本があったから」という意見が多くあげられる中、「宣伝や広告をみたから（ＳＮＳ含む）」という意見も多く、一部の回答からスマートフォン等の普及による宣伝効果が読書につながるきっかけになったとも考えられます。





⑪その他

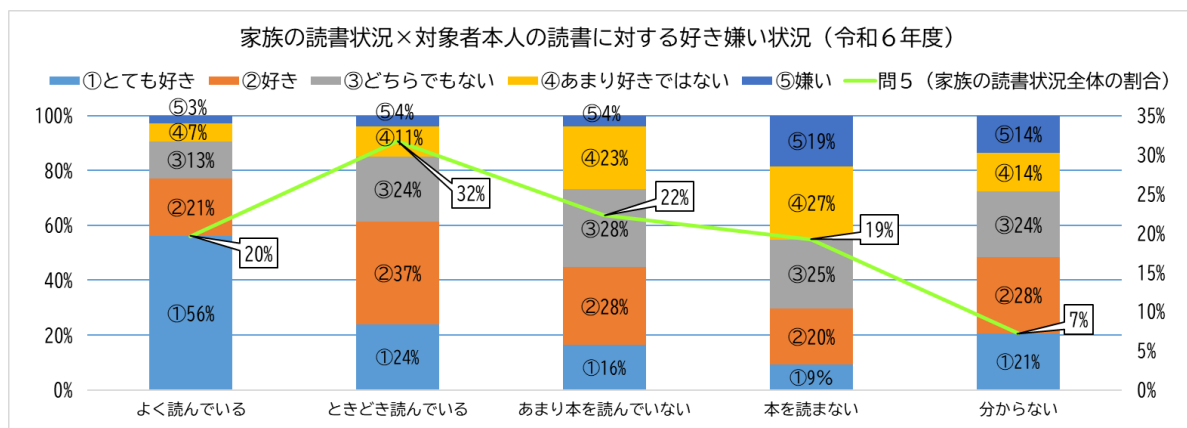
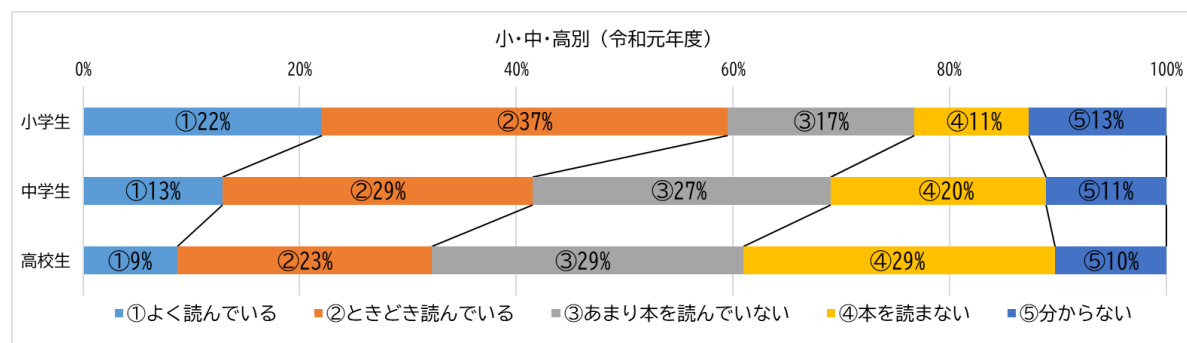
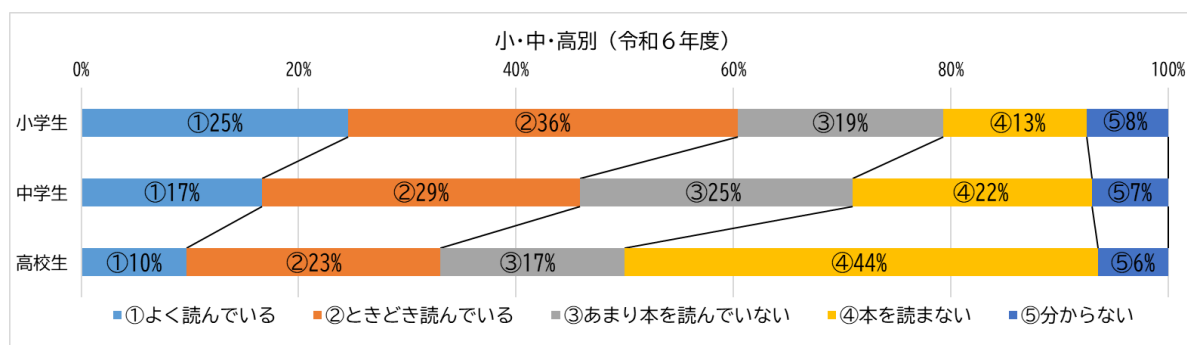
（令和6年度）	（件数）
本の面白さがわかったから	36
自分の好きな本があったから	29
時間があったから	26
好きな分野の本があるから	26
好きな映画やアニメ等の小説だから	19
宣伝や広告をみたから（SNS含む）	19
本を買ってくれるから	11
本を勧められたから	10
その他	56

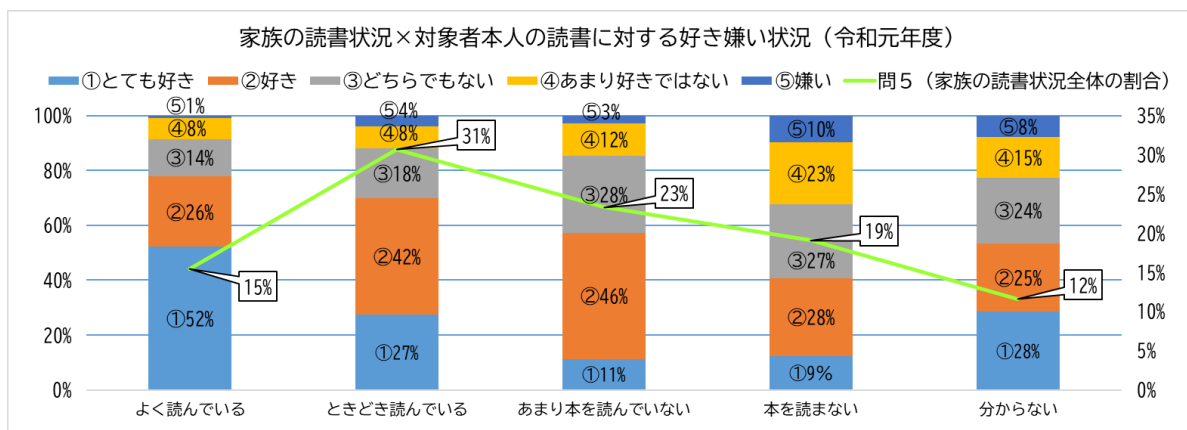
（令和元年度）	（件数）
本の面白さがわかったから	15
自分の好きな本があったから	12
本を読むことが好きになった・楽しいから	9
好きな映画やアニメ等の小説だから	8
自然と読めるようになった	5
本を勧められたから	5
本を買ってくれる（図書館へ行く）	3
その他	12

【問5】あなたの家では、家族が本を読んでいますか？（1つ選択）

家で家族が本を読んでいる割合は、全体でみると「②ときどき読んでいる」の32%が最も多く、次いで「③あまり読んでいない」の22%、「①よく読んでいる」20%となりました。小・中・高別では前回の結果と同様に年齢構成が上がるにつれ、家族が本を読む割合が減少する傾向となりました。また、高校生の「④本を読まない」は40%以上と、高い割合となりました。

また、【問1（読書が好きかどうか）】の回答と組み合わせたところ、「①よく読んでいる」「②ときどき読んでいる」と回答した方は読書好きの傾向であるのに対し、「③あまり読んでいない」「④読まない」と回答した方は読書嫌いの傾向にありました。こちらも前回と同様の傾向にあり、家族の読書状況が子どもの読書への興味に影響を与えることが読みとれます。



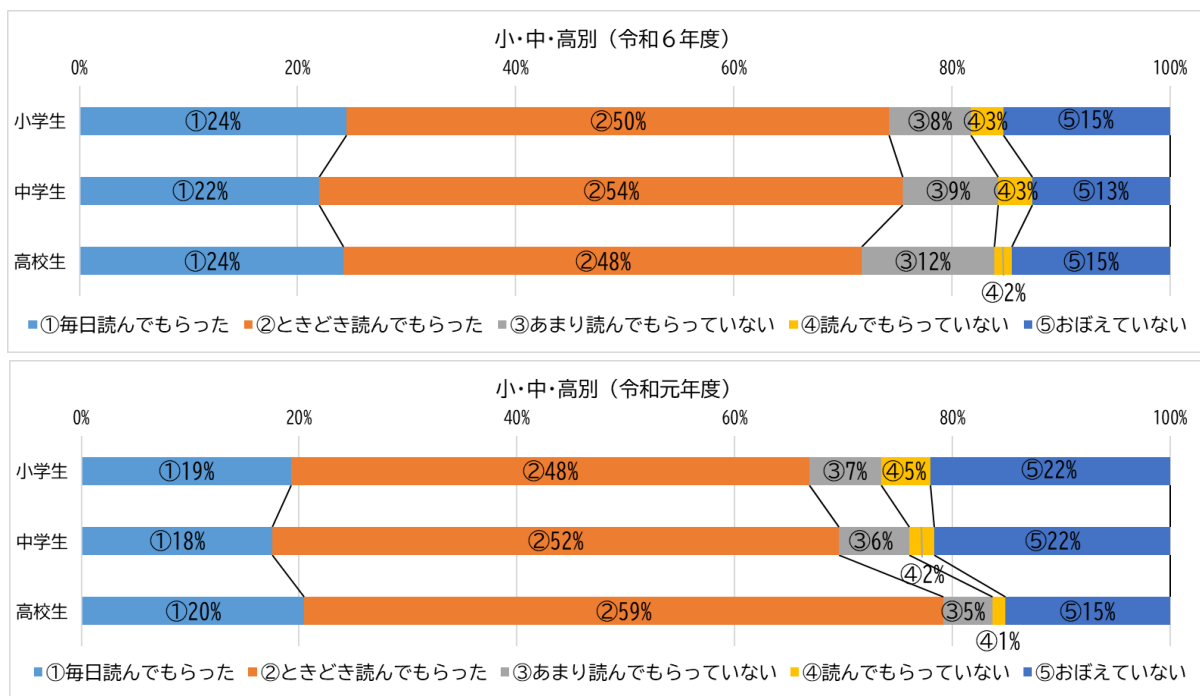


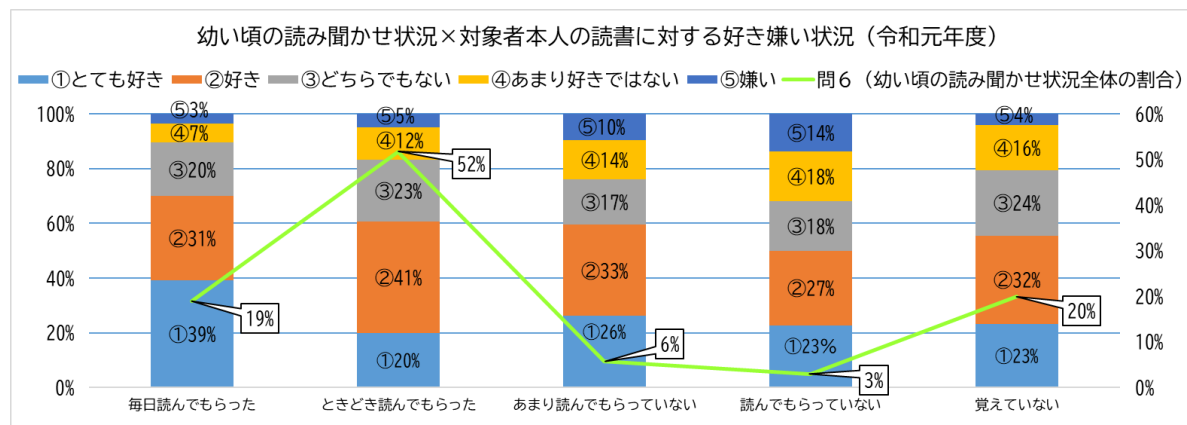
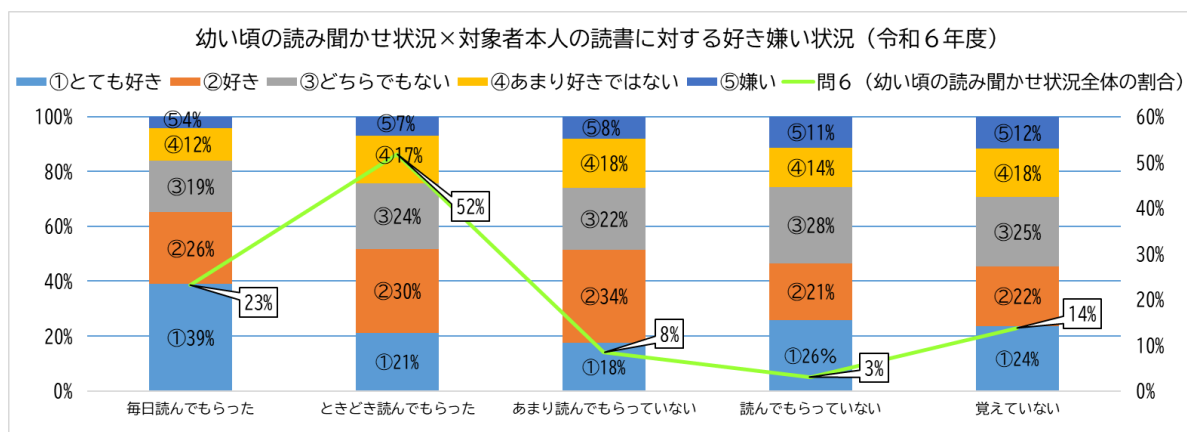
【問6】 幼い頃に絵本などを読んでももらいましたか？（1つ選択）

幼い頃に絵本を読んでももらった人の割合は、全体でみると「②ときどき読んでもらった」の52%が最も多く、次いで「①毎日読んでもらった」の23%、「③あまり読んでもらっていない」の8%となりました。小・中・高別でも、全年齢層で「②ときどき読んでもらった」の回答がほぼ半数の割合を占めています。

前回の結果と比較すると、「①毎日読んでもらった」の割合が4%増加しています。

また、【問1（読書が好きかどうか）】の回答と組み合わせたところ、「①毎日読んでもらった」と回答した方の60%以上が読書好きと回答しています。しかしながら「②ときどき読んでもらった」「③あまり読んでもらっていない」「④読んでもらっていない」と回答した方の読書好きか否かの割合に大きな差がないことから、幼い頃の日々継続的な読み聞かせの習慣が大事であることがうかがえます。



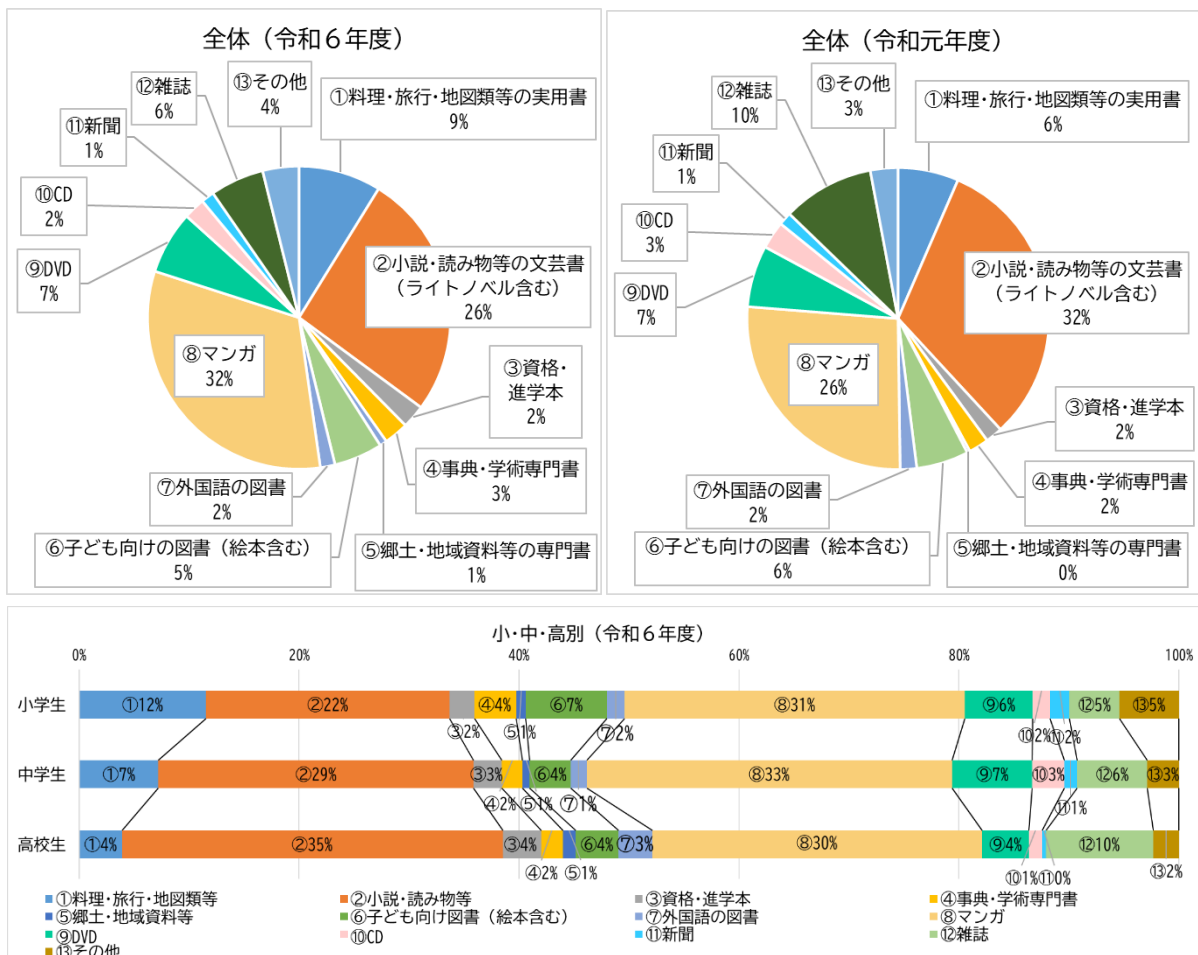


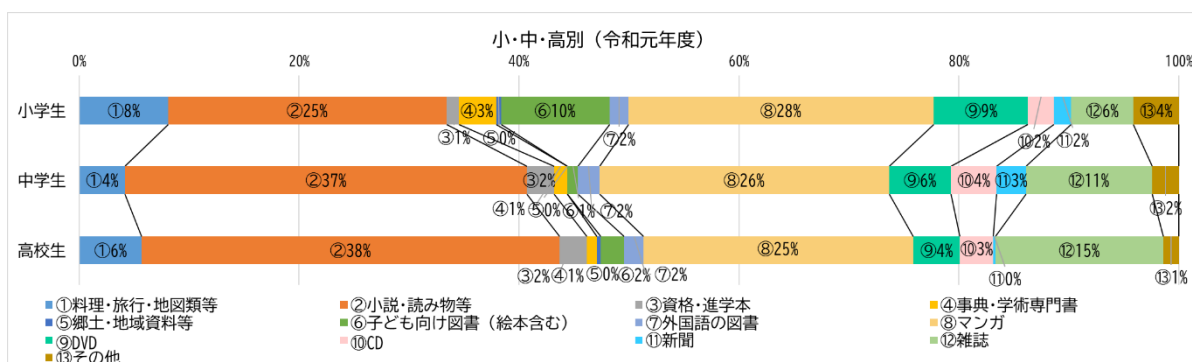
【問7】どのような内容の本などに興味がありますか？（最大3つまで選択可）

興味のあるジャンルについては全体でみると「⑧マンガ」と「②小説・読み物等の文芸書（ライトノベル含む）」が他のジャンルと比較して圧倒的に上回る結果となり、次いで「①料理・旅行・地図類等の実用書」「⑨DVD」「⑫雑誌」と続きました。今回は前回の結果と比較すると「⑧マンガ」と「②小説・読み物等の文芸書（ライトノベル含む）」の割合が逆転し、「⑧マンガ」への興味が上回る結果となりました。

小・中・高別で比較すると、年齢が上がるにつれて「②小説・読み物等の文芸書（ライトノベル含む）」の人気の高まっています。

「⑬その他」の意見からは前回の結果と同様に「歴史・伝記」「スポーツ関係」に根強い人気があるようです。





⑬その他

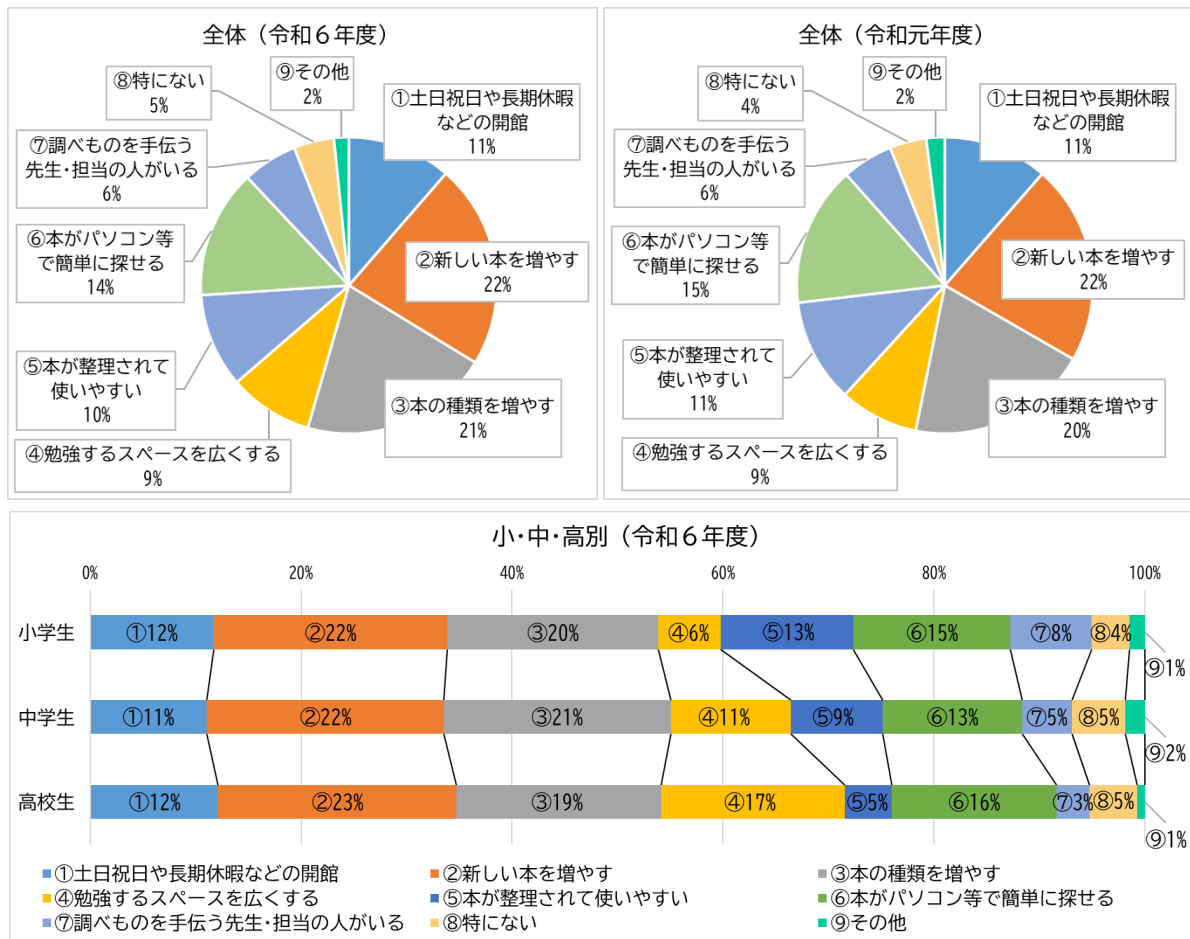
（令和6年度）	（件数）
歴史・伝記	35
自然・科学・生物	34
スポーツ関係	27
ミステリー・怖い話	19
興味なし（読まない）	15
ゲーム	14
図鑑	13
心理・恋愛	12
学習関係	12
物語・ファンタジー系	10
絵・イラスト・工作等	10
乗り物	9
その他	49

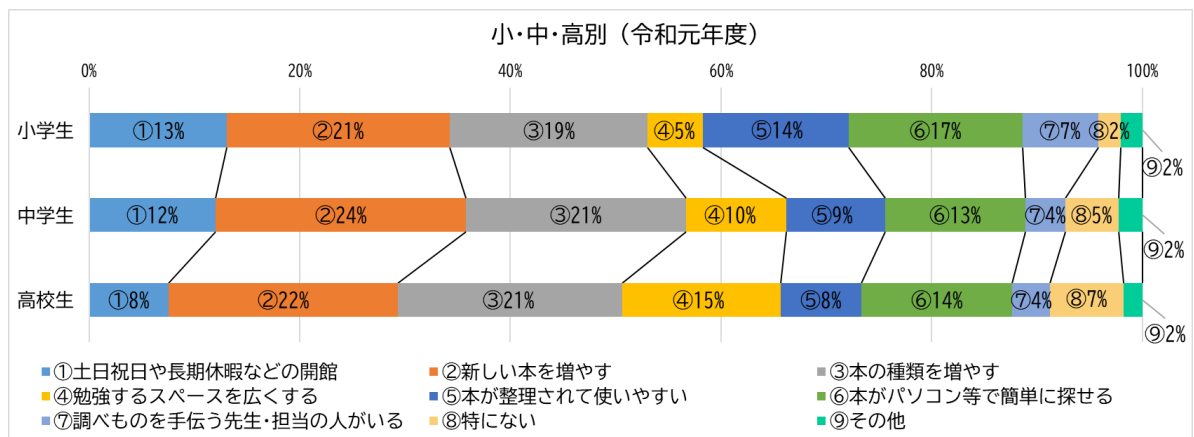
（令和元年度）	（件数）
スポーツ関係	10
歴史・伝記	11
動物	4
図鑑	4
絵・イラスト・工作	4
興味なし（読まない）	3
ミステリー・怖い話	2
星・星座	2
ゲーム	2
その他	14

【問 8】学校図書室を多くの人に利用してもらうためには、どのようなことが必要だと思いますか？（複数選択可）

多くの人に学校図書室を利用してもらうために必要なことは、全体でみると「②新しい本を増やす」が最も多くなり、次いで「③本の種類を増やす」、「⑥本がパソコン等で簡単に探せる」となりました。これは前回の結果と比較しても同様の結果です。

また、小・中・高別でみると、年齢構成が下がるにつれて「⑤本が整理されて使いやすい」の割合が増加し、上がるにつれて「④勉強するスペースを広くする」の割合が増加しました。そのため、年齢構成が上がるにつれ、勉強など読書目的以外での利用があるようにうかがえます。





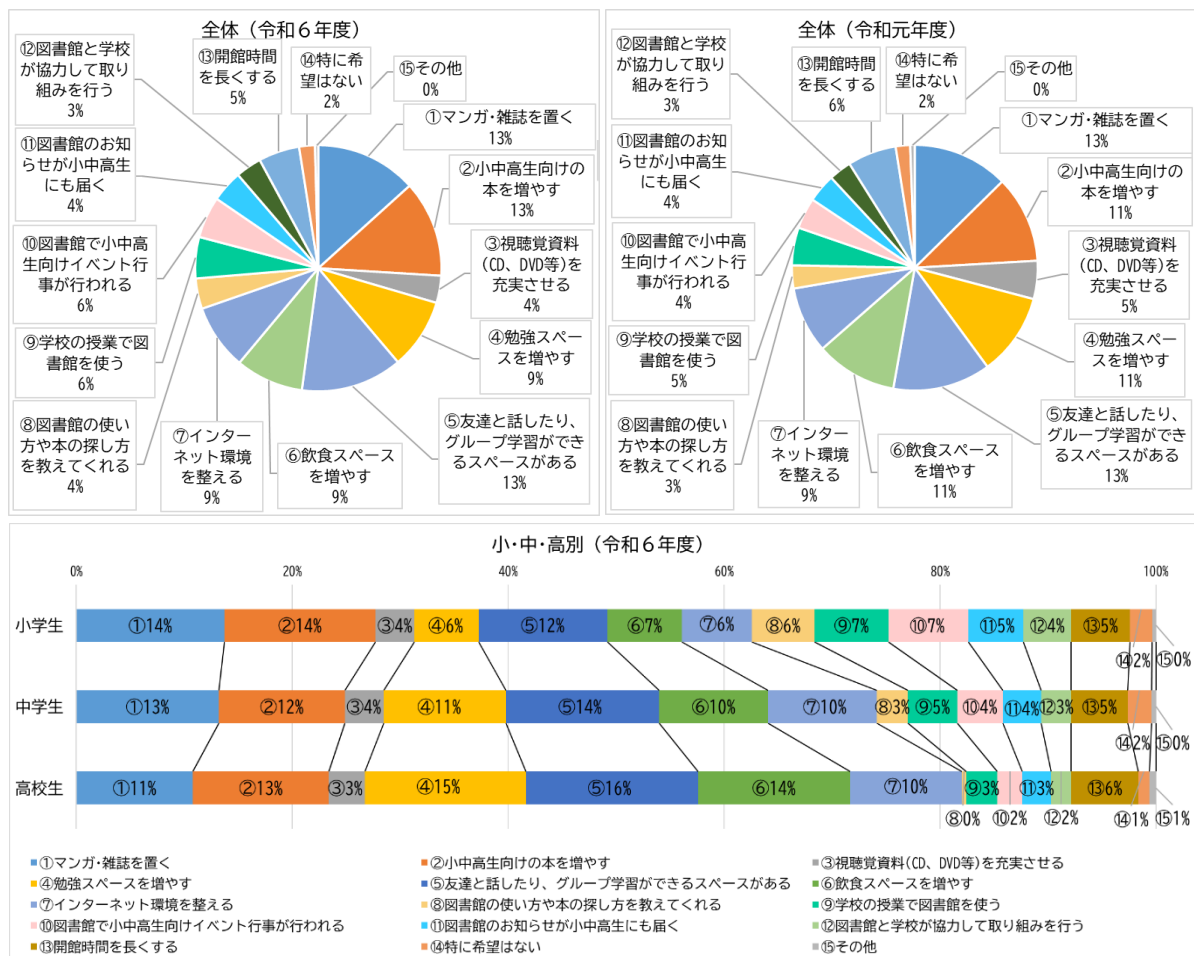
⑨その他

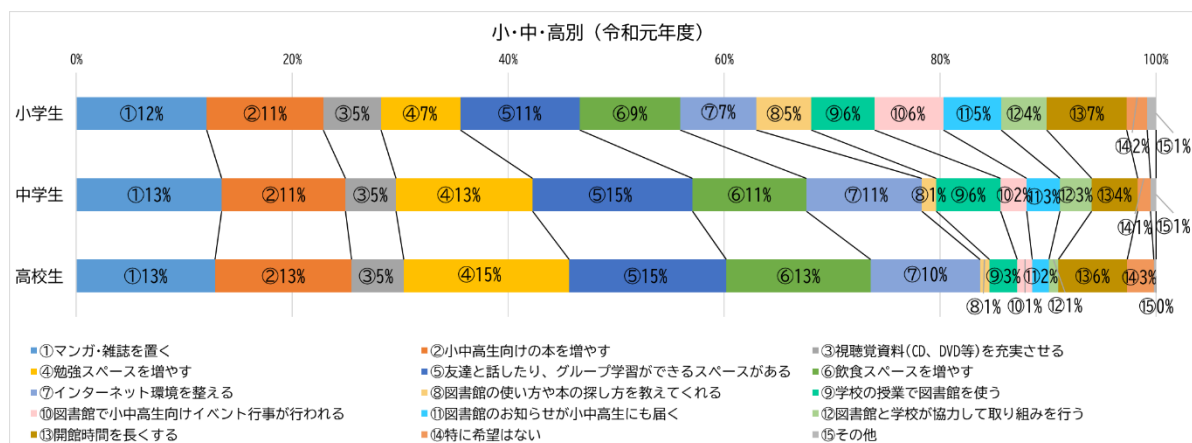
（令和6年度）	（件数）
アニメ（マンガ）を増やす	20
宣伝やイベントをする	18
人気、話題、最新の本を増やす	12
開室時間を増やす	10
面白い本や読みやすい本などを増やす	9
貸出数を増やす、貸出期間を延ばす	7
読書時間を設ける、授業で利用する	7
年齢層に合わせた選書	6
展示方法を工夫する	5
創意工夫する（アンケートなど）	4
利用方法の順守と周知	4
環境整備	4
蔵書の紹介をする	3
その他	26

（令和元年度）	（件数）
宣伝やイベントをする	6
アニメ（マンガ）を増やす	6
面白い本や読みやすい本などを増やす	5
創意工夫する（スタンプやおすすめの本の展示など）	5
パソコン等簡単に探せる機械を増やす	3
足を運びやすい場所に移動	3
本の貸出数を増やす	2
開室時間を増やす	2
その他	13

【問9】中央図書館や各センター図書室を多くの小中高生に利用してもらうためにはどんなことが必要だと思いますか？（複数選択可）

小中高生に利用してもらうためには全体でみると「①マンガ・雑誌を置く」「⑤友達と話したり、グループ学習ができるスペースがある」が同率で最も多く、次いで「②小中高生向けの本を増やす」となりました。これは前回の結果と比較しても同様の結果です。また、小・中・高別でみると、年齢構成が上がるにつれて「④勉強するスペースを増やす」「⑥飲食スペースを増やす」「⑦インターネット環境を整える」の割合が増加しました。前回の結果と同様に読書以外の目的で利用するスペースの必要性がわかります。





⑮その他

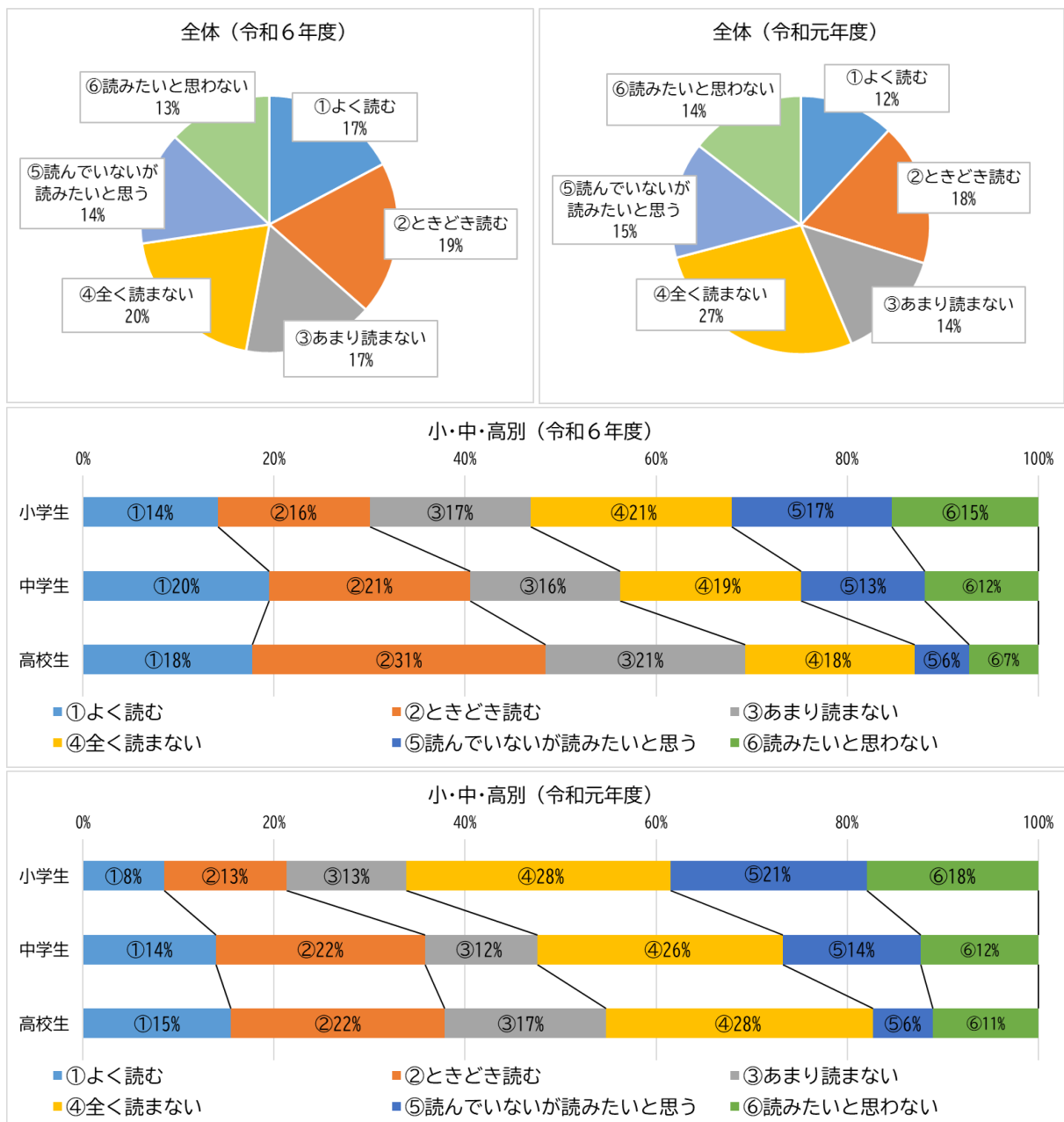
(令和6年度)	(件数)
アクセスをよくしてほしい	9
環境整備	6
文庫本をおいてほしい	2
図書室を増やしてほしい	2
リクエスト本をおいてほしい	2
親しみやすい本（ライトノベル等）をおく	2
おすすめ、人気の本を増やしてほしい	2
IT 機器の利用スペースがある	2
その他	20

(令和元年度)	(件数)
人気の本を増やしてほしい	2
パソコンを置いて利用しやすくする	2
親しみやすい本（ライトノベル等）をおく	2
新刊を入れるスピードを速くしてほしい	2
小説の読み仮名付きを増やしてほしい	1
9時～22時にしてほしい	1
シャトルバスを出してほしい	1
カフェがついている図書館	1
その他	8

【問10】電子書籍を読みますか？読みたいと思いますか？（1つ選択）

電子書籍については全体でみると「④全く読まない」が20%と最も多くなりましたが、次いで「②ときどき読む」が19%の僅差となりました。「①よく読む」「②ときどき読む」「⑤読んでいないが読みたいと思う」を合計すると50%となり、回答者の半数が電子書籍を利用又は利用に興味を持っていることがわかります。また、小・中・高別でみると、年齢構成が上がるにつれて電子書籍を読んでいる割合が増加することがわかります。

前回の結果と比較すると、「④全く読まない」が7%減少しており、電子書籍の普及が進んでいることがうかがえます。

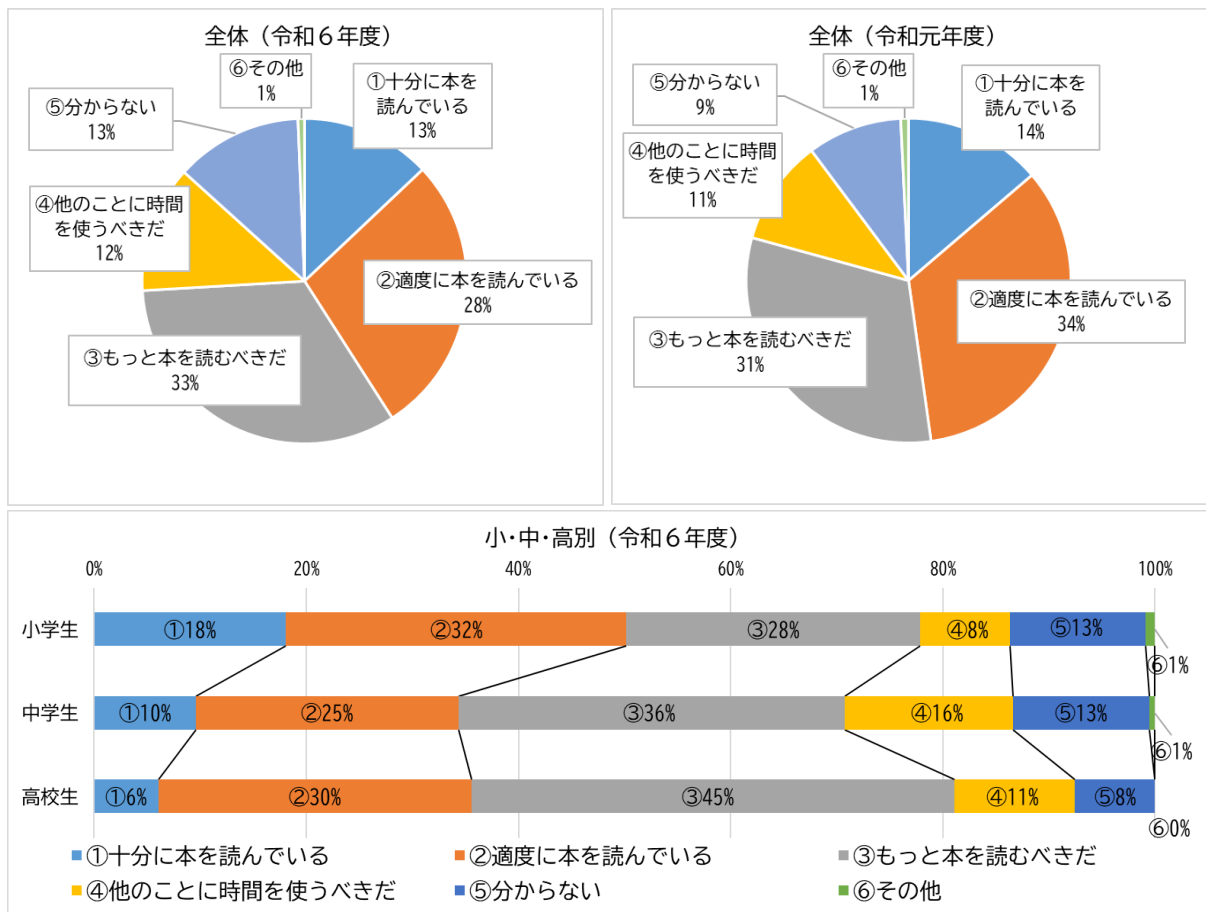


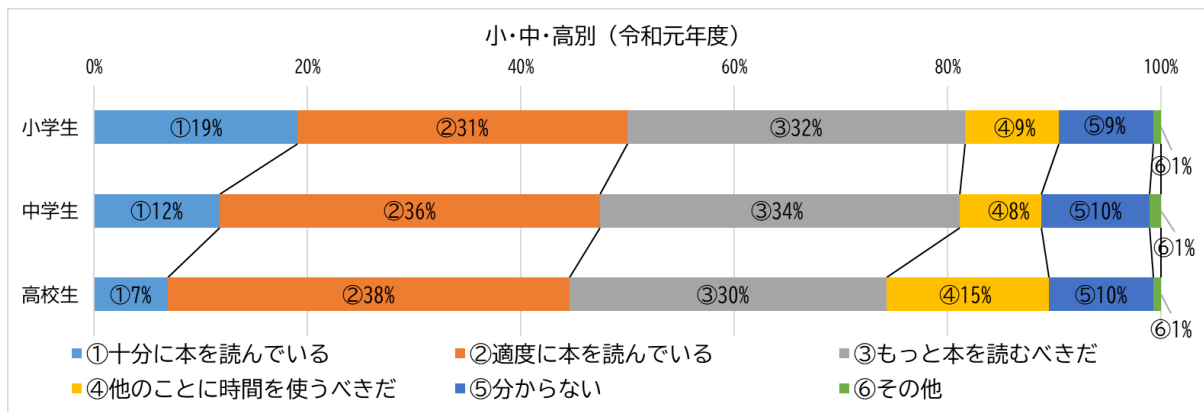
【問11】あなたは、自分の読書量についてどう思いますか？（複数回答可）

読書量について全体でみると「③もっと本を読むべきだ」の割合が最も大きく、次いで「②適度に本を読んでいる」「①十分に本を読んでいる」となりました。

また、小・中・高別において「①十分に本を読んでいる」「②適度に本を読んでいる」の結果を合計（以下、「本を読んでいる」）した割合が小学生では50%であるのに対し、中学・高校生では約35%という結果になりました。

前回の結果では回答者の50%近くが「本を読んでいる」と回答したのに対し、今回は40%程度に留まりました。中学・高校生の結果からみてもそれぞれ前回よりも10%程度減少していることから、中学・高校生の読書離れが進んでいることがうかがえます。





⑥その他

（令和6年度）

（件数）

読まない	7
人より読んでいる	4
読んでいるが少ないと思う	2
読みすぎている	2
少しでもいいから読みたい	1
特に何も思わない	1
その他	5

（令和元年度）

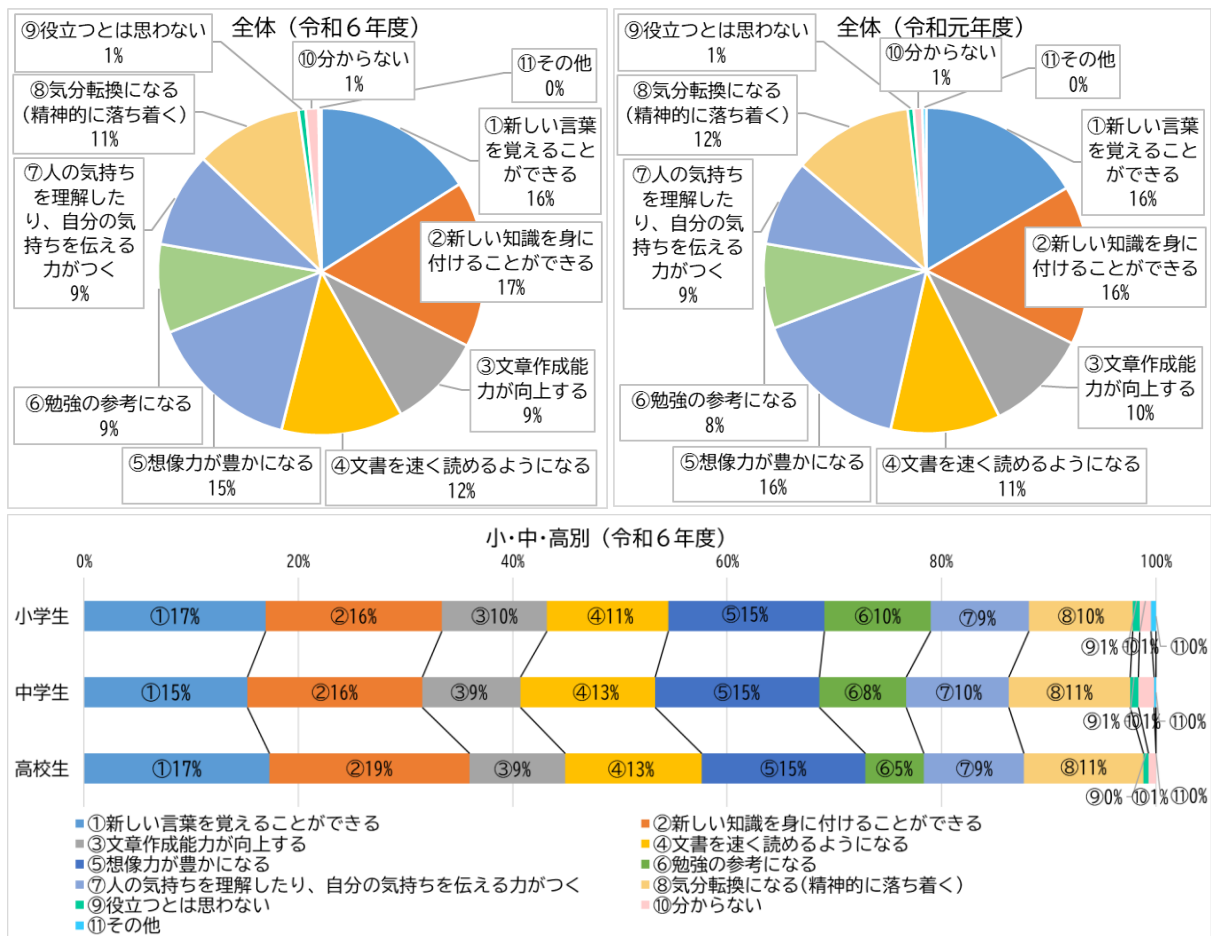
（件数）

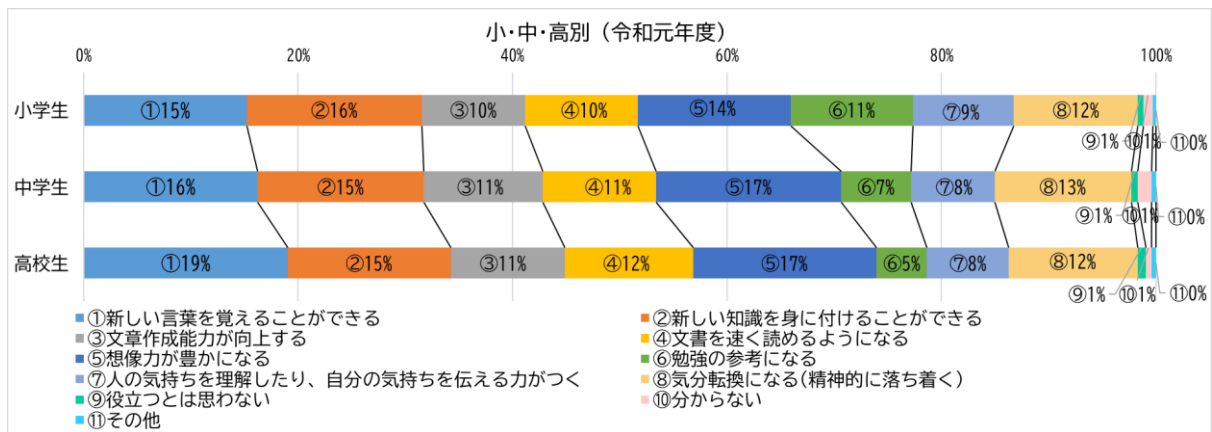
読まない、興味なし	3
もっと読みたい	1
読みすぎると言われる	1
マンガは読むけど小説はたまに	1
大人の本を読んだ方がいい	1

【問12】読書はどんな役に立つと思いますか？（複数回答可）

読書により身に付けられるのは、全体でみると「②新しい知識を身に付けることができる」が最も多く、次いで「①新しい言葉を覚えることができる」「⑤想像力が豊かになる」が僅差となりました。小・中・高別の結果からは中学生、高校生において同様の結果が得られています。これは前回の結果と比較してもほぼ同様の結果です。

多くの回答者が本を読むことで、様々な効果が得られると感じていることがうかがえます。





⑪その他

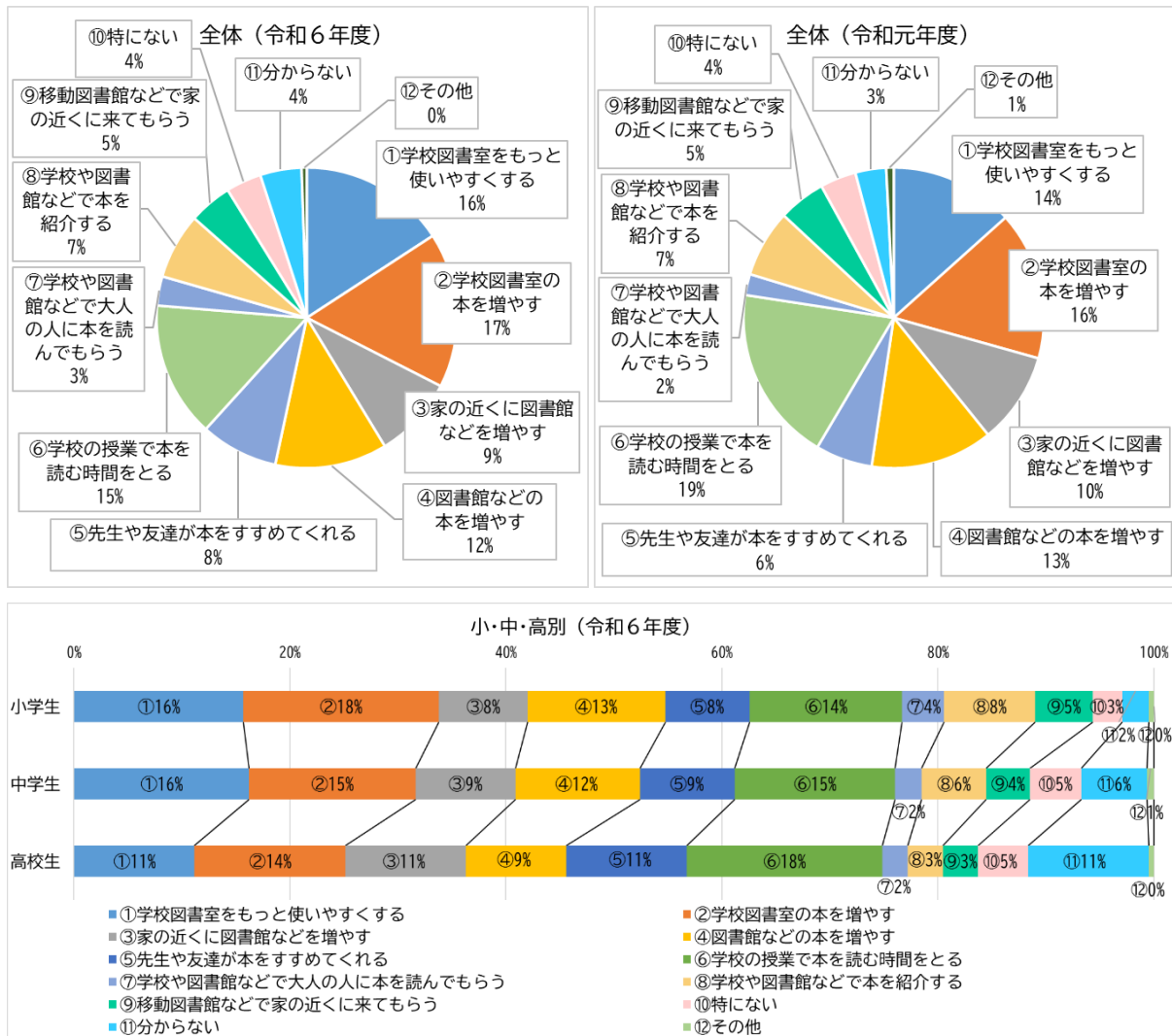
(令和6年度)	(件数)
漢字の力がつく	5
世界が広がる	4
人との関わりが増える	3
将来役に立つから	2
集中力が上がるから	2
心の整理がつく	2
モチベーションが上がる	2
暇つぶし	1
その他	7

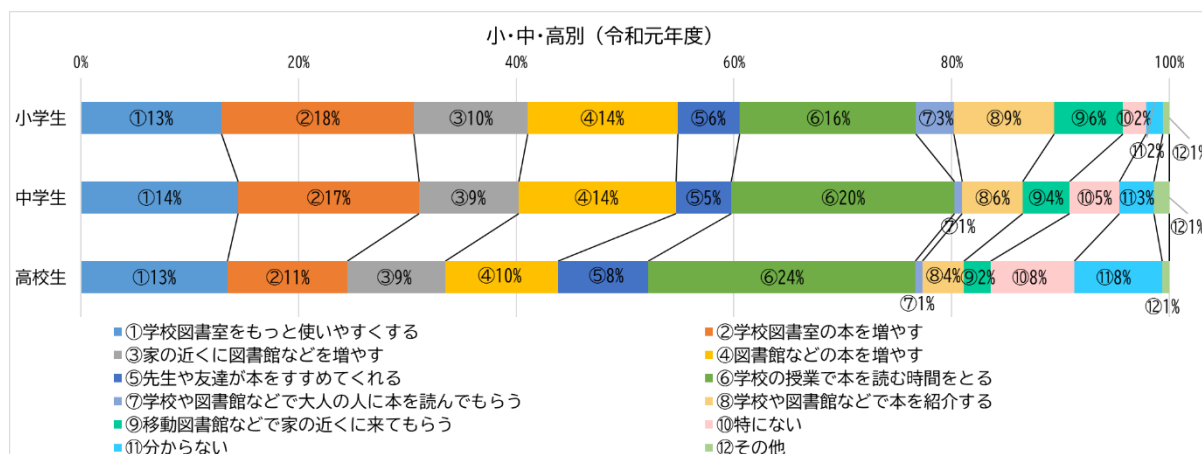
(令和元年度)	(件数)
漢字の力がつく	4
理解力・判断力がつく	2
本のことで盛り上がる	2
暇つぶし	1
その他	3

【問13】 どうしたらみんながもっと本を読むようになると思いますか？（複数選択可）

みんながもっと本を読むようになるためには、全体でみると「②学校図書室の本を増やす」が最も多く、次いで僅差で「①学校図書室をもっと使いやすくする」「⑥学校の授業で本を読む時間をとる」となりました。これは前回の結果と比較すると多少の前後はあるものの、ほぼ同様の結果となりました。

小・中・高別では小・中生に比べ高校生が「⑤先生や友達が本をすすめてくれる」の割合が高く、外部とのつながりに影響を受けやすいことがうかがえます。





⑫その他

（令和6年度）

（件数）

マンガをおく	9
読書に興味が出るように宣伝する	8
幅広い世代に受け入れられる本を増やす	2
イベントを開催する	2
図書館の施設を整備する	2
面白い本をおく	2
幼少期から読む習慣をつける	1
その他	15

（令和元年度）

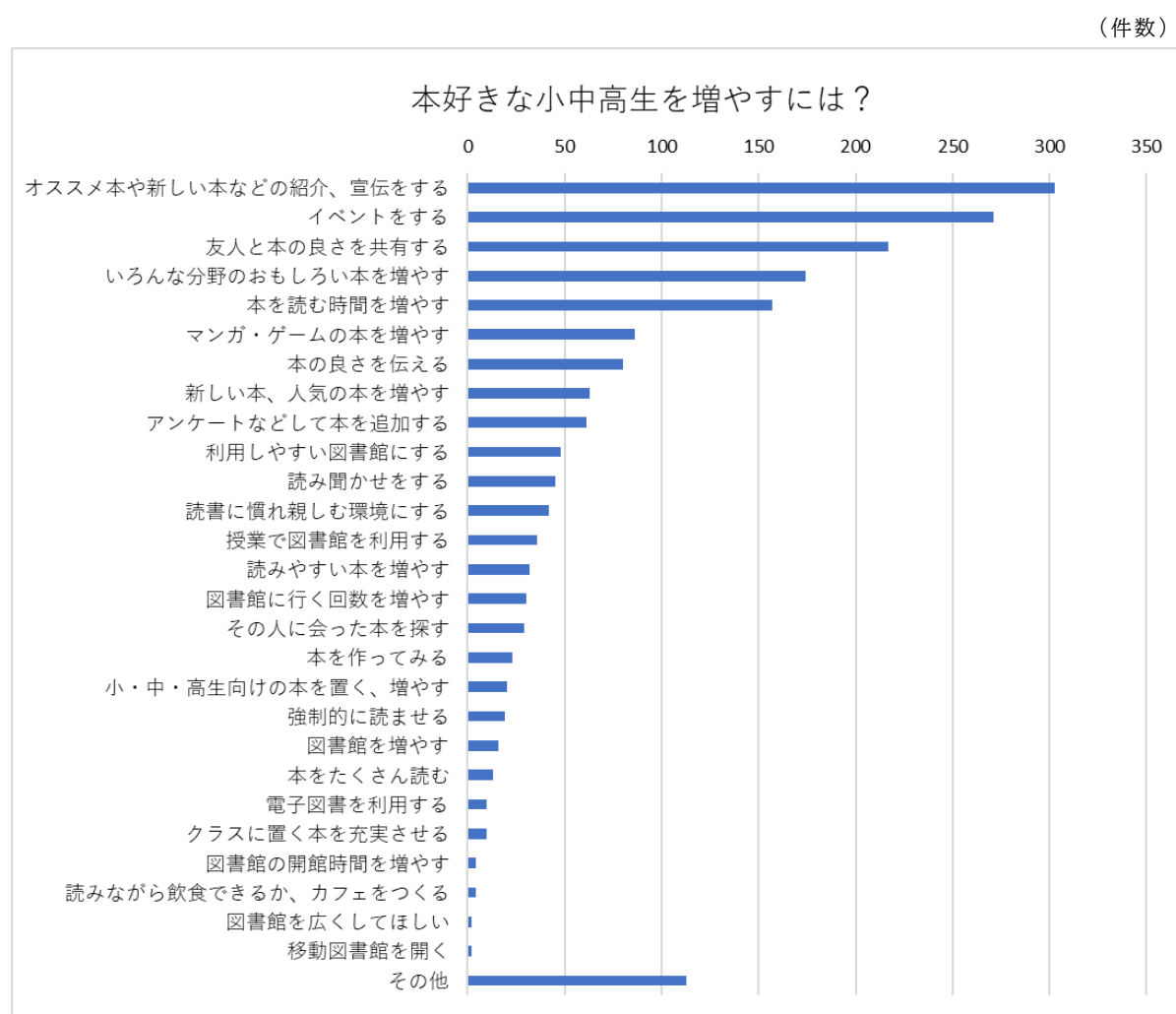
（件数）

マンガ・雑誌をおく	6
読まない	2
人気シリーズをおく、ランキングをつける	1
学校の先生が読書の素晴らしさをおしえる	1
図書室・図書館の使える時間を増やす	1
同じジャンルではなく、違うジャンルの本を勧める	1
その他	4

【問14】本が好きな小中高生を増やすにはどうしたら良いと思いますか？（自由記述欄）

自由記述欄では、「オススメ本や新しい本などの紹介、宣伝をする」という意見が多く、次いで「イベントをする」、「友人と本の良さを共有する」となりました。

「オススメ本や新しい本などの紹介、宣伝をする」では、「ポスターやチラシを作る」「本のポップを作る」といった意見がありました。「イベントをする」では、「スタンプラリー企画」や「一定数、本を読むと景品がもらえる」といった意見がありました。



3 アンケート調査のまとめ

(1) 今回結果と前回結果との比較

小・中学生、高校生において読書が「とても好き」「好き」と回答した子どもの割合が前回の結果と同様に50%を超えましたが、読書が「あまり好きではない」「嫌い」と回答した割合が20%以上であったこと、1か月に本を「ほとんど読まない」と回答した割合が40%以上であったことから、前回の調査から比較し徐々に読書離れが進んでいると考えられます。しかしながら、自分の読書量について「もっと本を読むべきだ」という回答が前回から2%増加していることから、児童・生徒自身、読書離れに対する危機感を感じていることもうかがえます。

本を読むようになったきっかけとしては、「家にたくさんの本がある」という回答が最も多く、次いで「学校の読書時間」「小さいときに家で本を読んでもらった」という結果となりました。さらにクロス集計の結果、家族が家庭で本を「よく読んでいる」と回答した児童・生徒の75%以上が読書を「とても好き」「好き」と回答していることに加え、幼い頃に絵本などを「毎日読んでもらった」と回答した児童・生徒の60%以上が読書を「とても好き」「好き」と回答していることから家庭での幼い頃からの読書習慣及び環境が読書に親しむきっかけづくりとして重要な意味を持っていることが改めてわかりました。また、どうしたらもっと本を読むようになるかという問いに対し、学校図書室に関すること、授業時間内での読書時間が上位にあげられたことから、前回結果と同様に教育課程での読書時間、及び読書環境の提供の重要性がうかがえます。

電子書籍については半数の児童・生徒が電子書籍を利用または利用に興味をもっており、本を読むようになったきっかけの「その他」としても「宣伝や広告をみたから（SNS含む）」があげられたことから、スマートフォン等の通信機器の普及が読書の一助となっていると考えられる一方で、本を読まない理由の「その他」として「ゲームやスマホをしたい」という意見があげられました。

(2) 今後の課題

子どもの読書活動を推進するためには、幼少期から本に親しむ環境と機会を設け、読書への関心とともに、自主的な読書習慣を定着させることが重要な課題であると考えます。また、年齢構成が上がるにつれて不読率が高まっていることから、今後も継続的に学校と図書館の連携を図り、学校図書室を支援していく必要があります。

さらに今後は、スマートフォン等の通信機器の普及が子どもの読書活動にどのような影響を与えていくのか、検討していく必要があります。